

登録コード	L1641203	開講年度	2026				
担当教員	白井 真理子			副担当			
授業科目	心理学特殊実験Ⅱ						
英文授業名	Psychology：Advanced ExperimentsⅡ						
授業タイトル	心理学特殊実験Ⅱ						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・1時限 水曜・2時限
講義室	人文201演習室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ，2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			⇔	社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することにより、自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力を身につけることができるようになる。		
	【2022年度以前カリ対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			⇔	社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することにより、過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力を身につけることができるようになる。		
	【2022年度以前カリ対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			⇔	自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成し、その検証のために、実験や調査などの手法を用いてデータを収集・分析し、その結果を解釈し、論文としてまとめることができるようになる。これにより、情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーを獲得できるようになる。		
	2026Lカリ，2025Lカリ，2024Lカリ，2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につけている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することができるようになる。これにより、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力（思索力・受容力・批判力）を身につけることができるようになる。		
	【2023年度以降カリ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につけている。【開拓力・企画発想能力】			⇔	先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成し、その検証のために、実験や調査などの手法を用いてデータを収集・分析し、その結果を解釈し、論文としてまとめていくことができるようになる。これにより、専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力（開拓力・企画発想能力）を身につけることができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	社会心理学、特に感情の分野において研究がいかに行われるか、その全体的な流れを学ぶ。自らの問題意識をリサーチ・クエスチョンとして表現し、仮説にする。その後、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のためのシナリオや質問紙を構成し、実際にデータを収集する。実験や調査実施と並行しながら、より良い論文を執筆するために自身のテーマと関連する論文を読み込む。最終的に、取得したデータを基に論文としてまとめる。 このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与えあう授業構成とする。						
授業計画	第01回：ガイダンス：データ取得から論文作成までの一連の流れについて 第02回：実験・調査計画の確認：実験・調査計画について発表する 第03回：実験・調査計画の精練：グループ・ディスカッションによって、実験・調査計画を精練する 第04回：実験・調査の実施準備：実験・調査の実施準備 第05回：実験・調査の実施(1)：実験・調査を実施し、データを収集する 第06回：実験・調査の実施(2)：引き続き実験・調査を実施し、データを収集する 第07回：実験・調査の実施(3)：実験・調査を実施し、データを整理する 第08回：データ分析(1)：取得したデータを分析する 第09回：データ分析(2)：引き続き取得したデータを分析する 第10回：データ分析(3)：分析の結果を発表し、グループ・ディスカッションにより解釈を深める 第11回：データの考察(1)：得られた結果を解釈する 第12回：データの考察(2)：得られた結果を先行研究との関連を考えながら解釈する 第13回：論文の作成(1)：研究結果を論文の形にまとめる 第14回：論文の作成(2)：研究結果を論文の形にまとめながら、その内容を全体に発表する 第15回：まとめ、授業評価アンケート						
成績評価の方法	授業の討論への積極的参加(50%)と論文の質(50%)により評価する。						
成績評価の基準	論文については、序論、目的、方法、結果、考察、引用文献の6項目が含まれており、読み手に分かりや						

成績評価の基準	すく記述されていることが必要である。 各項目については、以下6項目の達成度から評価する。 1. 序論において、研究の目的が明確に記述されている 2. 仮説が先行研究に基づき記述されている 3. 方法において、対象者、手続き、分析方法が実施した通り正確に記述されている 4. 結果において、得られた結果が正しく記述されている 5. 考察において、得られた結果に対して論理的な解釈がなされている 6. 引用文献において、所定の書式通りに記述されている 6項目すべてを満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「卓越している」、5項目を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。
事前事後学習の内容	自身の研究関心・テーマに基づき、論文を検索し読み込むことで、先行研究や関心領域の知識を身につける必要がある。各自、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
履修上の注意	「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」、「社会心理学基幹演習」か「心理学基幹演習」、「心理学特殊実験Ⅰ」を履修したものを対象とする。
質問、相談への対応	メール(mshirai@shinshu-u.ac.jp)で随時対応する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に適宜紹介する。